

55 トウヨシノボリ(宍道湖型) (ハゼ科)
Rhinogobius sp.OR

兵庫県ランク:要調査
環境省ランク:-

種の概要

全長7cm程度で、河川中流域の比較的流れの早い礫底に生息する。オオヨシノボリに似るが、オオヨシノボリに顕著に見られる胸鰭基部の黒色の円形斑、尾鰭の基部の黒色横帯が不明瞭である。繁殖期の雌の腹部は青色になる。

写真なし

県内における生息状況及びその他特記事項

県内では日本海側の円山川水系に分布する。円山川に生息する個体からは、耳石に含まれる金属元素の比率（Sr/Ca比）を用いた回遊履歴の解析の結果、生活史の一時期を海で過ごす両側回遊型と、海には降らない陸封型がともに確認されている（Ohara et al., 2009）。

保護上の留意点

河川性ヨシノボリに共通する留意点として、生息には浮石のある礫河床が必要である。また本種には両側回遊をする個体も確認されており、河川横断工作物による稚魚の遡上経路の阻害を防ぐ必要がある。なお、本型を含むトウヨシノボリ類はミトコンドリアDNAを用いた分子系統解析により、地理的にまとまりのある群（北日本、琵琶湖、西九州）に分けられるとされた（向井・高橋（2010））。本型はこのうち北日本群にあたると思われる。

県内分布

豊岡市、養父市、朝来市

【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励

主要な選定理由

人為性	激減	
	環境	○
	捕獲	
	遺伝	
特殊性	特殊	
	孤立	
学術性	極限	
	限界	
	希少	

